

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.116) 2020/12/7

目次

1. 第25期日本学術会議新規会員任命拒否に対する声明について
2. 第46回大会開催報告
3. 第47回大会開催予告
4. 追悼 川田千恵子先生(本学会元理事)
5. 追悼 三澤仁平先生(本学会評議員)
6. 理事会報告
7. 看護・ケア研究部会報告
8. 「保健医療社会学を学べる研究者」掲載情報募集
9. 編集後記

1. 第25期日本学術会議新規会員任命拒否に対する声明について

第25期日本学術会議新規会員任命にあたり内閣総理大臣が6名を任命拒否した件について、理事会で協議を行い下記の通り、理事会として声明を出すことを決定し、学会ホームページに掲載するとともに、日本学術会議に通知をしました。

日本保健医療社会学会理事会

2020年10月6日

第25期日本学術会議新規会員任命にあたって、内閣総理大臣は日本学術会議が推薦した105名の候補者のうち6名を任命しませんでした。

10月5日に行われた内閣記者会でのインタビューにおいて、内閣総理大臣は、任命拒否の理由について、「総合的俯瞰的観点の確保から判断をした」と回答しています。しかしながら、学术界との事前の対話もないまま、曖昧な「総合的俯瞰的観点」が導入されたことは、日本学術会議の独立性と学問の自由にとっての脅威であると危惧されます。

日本保健医療社会学会理事会は、この度の内閣総理大臣による任命拒否とその理由開示拒否という決定が、日本学術会議の独立性と学問の自由を著しく侵害するものと考え、その理由を速やかに開示するとともに、この決定を撤回して6名の候補者を会員に任命することを強く求めます。

2. 第46回大会開催報告

2020年9月5日(土)、6日(日)に開催を延期した第46回大会については、COVID-19の感染が継続する状況を踏まえ、開催方法を大会長と理事会で協議を行い、オンラインで開催いたしました。詳細な報告は次号に掲載いたします。

3. 第47回大会開催予告

2021年5月15日(土)、16日(日)に第47回日本保健医療社会学会大会を開催いたします。大会長は中村英代会員(日本大学文理学部)です。大会ウェブサイトの開設及び一般演題、RTDの募集開始は12月4日(金)の予定です。改めて学会のホームページやメールでご案内いたします。

大会テーマ：新型コロナウイルス感染症と社会

開催方法：オンライン開催

4. 追悼 川田智恵子先生(本学会元理事)

川田智恵子先生を偲んで

伊藤 美樹子(評議員)

川田先生の訃報はあまりにも突然のことでした。2019年の12月19日にご自宅にて体の不調を感じて自ら救急車を要請されましたが、救急隊の到着までに逝去されました。あまりにも突然に。

川田智恵子先生は、園田恭一先生のご退官を経て1992年度に第3代教授に就任されてから1997年の春に東京大学を定年退官されました。園田教授時代と変わらず、教室の構成員は、年齢層、国籍も様々で、保健学のみならず、社会学、教育学、看護学、薬学や栄養学、法学など学際性に富みかつ性別構成も半々か女性が多いという特徴がありました。また大学院生は研究会以外に講座会議への出席が必須でした。講座の構成員として講座内の事業目標を共有し、事業計画を決定し、係などの具体的活動として実施するプロセスが重視されていました。学術的多様性を受容し、構成員の参加を重視する民主的な教室経営は、ヘルスプロモーションの実践ではなかったかと今更ながら思います。そうした教室運営を当時は当たり前のことと認識していましたが、今思えば大変恵まれていたと思います。

川田先生は、いつも早く出勤されるハードワーカーで、風邪ひとつもひかないタフさは、随一でした。常にスツと背筋が伸び、詠えのスーツを纏われ、きれいな言葉で話されていました。

川田先生の東大の退官記念パーティの挨拶の締めくくりで印象に残る一節があります。東大での教員生活で自身はとても周りに恵まれた、とても幸せだった、に続けて、「本当は、いじわるされてたのかもしれないけれど、私は鈍感だから、わからなかったのかも」と茶目つけな笑みをたたえておっしゃったことです。マイノリティとしての東大女性教員であり、医学系研究科にある教室主宰者である川田先生にとって、スーツとは鎧や戦闘服ではなかったかと。先生を象徴するグレイヘアは、覚悟ではなかったかと。

川田先生の主要な研究テーマは、健康教育、ヘルスプロモーション、主体性の形成や参加、エンパワメントでした。川田先生にとって保健社会学は、大学院生たち

が行う研究活動を通じて「保健、医療、リハビリ、看護、福祉に関する課題を社会学的方法で接近し、解明する学問」であり、社会学的方法には、「心理学、教育学、文化人類学、経済学、法学、政治学なども加えた「社会科学」までも含まれており、かつ健康教育とは不可分の学問であるというお立場でした。その薫陶を受け、私にとっての保健社会学の射程も川田先生と同じでありました。先生はその後、岡山大学、愛知県立看護大学、和歌山県立医科大学と看護学教育の高度化に貢献されました。私が東大を出てから勤めた大阪大学でも保健学科の博士課程の設置の際には先生のお力が必要でした。さらにその後の大学院重点化に伴う改組の際、上司から新しい講座名を提案するように言われた時、私は迷わず、「ヘルスプロモーション」を挙げました。「総合ヘルスプロモーション科学講座」は今も阪大にあります。川田先生が糖尿病患者を中心に取り組んでこられたエンパワメントや主体性の形成も、私にとっての研究上の鍵概念となっています。

川田先生は時に「困っちゃったわねえ」「も～、どうしようかしら」と大学院生にも漏らされることがありました。またご自宅では「チョコちゃん」という愛称で呼ばれ、オフの時には若手教員に対して本気で卓球に臨まれました。強いけれど弱い、猛烈な仕事をこなされながらも、親しみやすいのが川田先生の魅力です。

平成31年の東京大学の入学式で、上野千鶴子氏がNPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長として述べられた祝辞にある「強がらず、自分の弱さを認め、支え合って生きる」は、まさにマイノリティとしての川田智恵子流の‘智慧’であり、スタイルそのものであったと思います。

あまりにも突然の訃報に驚きました。追悼文を書かせていただく機会を得て、私にとっての当たり前をなす規範のルーツが恩師川田千恵子先生のもとで学ばせていただいた大学院時代にあることを改めて思い起こす機会となりました。

深い感謝とお礼を申し上げるとともに、先生のご冥福をお祈りいたします。

5. 追悼 三澤仁平先生（本学会評議員）

松繁卓哉（理事）

本学会評議員をつとめていただいていた三澤仁平先生（日本大学）が2020年6月13日に他界されました。1977年12月のお生まれで42歳の若さでした。私は同じ研究班で親しくさせていただき「三澤さん」とお呼びして、ご本人から、このところの入退院の状況やご自宅での療養の様子についてメールでやり取りをしておりましたが、訃報に接し、友人として、共同研究者として、深い悲しみに暮れております。誰よりも三澤さんご自身が、今後ますます研究の道を邁進していくことを思い描いておられただけに無念のことでしょう。

本学会では、評議員の他、機関誌『保健医療社会学論集』の査読、論文投稿、学会大会での研究報告など、たいへん大きな貢献をいただきました。医療管理学や健康の

社会的決定要因をご専門とするかたわら、私達の研究班ではご自身の病の体験を見つめながら「患者視点」に関する研究に取り組んでこられました。2019年度には、人々の健康志向におよぼす社会の不確実性の影響に関する研究で新たに科研費も獲得していたところでした。まさにこの時代、三澤さんの持つ研究視点がますます必要とされているところでした。

三澤さんの遺志を継ぎ、研究を続けていくことが何よりもの供養になると思っています。20代の頃に大病をし、その後、紆余曲折を経る中で、研究者として、ひとりの人間として、病に向き合ってきた三澤さん、本当におつかれ様でした。ゆっくりおやすみください。ここに深く哀悼の意を表し、ご冥福を心よりお祈りいたします。

6. 理事会報告（松繁理事）

日時：2020年7月4日（土）10：00～13：00

会場：ZOOM会議

出席者：朝倉会長、松繁理事、蘭理事、本郷理事、前田理事、戸ヶ里理事、天田理事、清水理事、小澤監事、山中大会長（第46回）、事務局 平野（記 国際文献社）

欠席者：中山理事、武藤理事

1. 第46回大会について（山中大会長・研活担当理事）

山中大会長より9月の大会をオンライン開催にすることについて提案があり承認された。

2. 総会・評議員会の開催について

第46回大会をオンライン開催するにあたり、総会・評議員会の内容について協議した。

3. 規約の改正について

朝倉会長より会員種別の見直しに関する提案があった。引き続き理事会で検討し、評議員会でも意見聴取していくことが話し合われた。

4. 編集委員会報告（戸ヶ里理事）

戸ヶ里理事より10月に編集委員会を開催する予定であることが伝えられた。

5. 定例研究会の報告（関東）（前田理事）

今年3月に開催予定であった関東定例研究会と看護・ケア研究部会の公開企画は新型コロナウイルス感染拡大を考慮し中止となった。次回開催内容について話し合われた。

6. 定例研究会の報告（関西）（蘭理事・本郷理事）

本郷理事より現時点で詳細は決定していないが、オンラインで開催することを検討していることが伝えられた。

7. 看護・ケア研究部会報告 (清水理事)

清水理事より役員改選をし、夏頃から活動を再開するとの報告があった。

8. 会員メール配信の事務局委託について

朝倉会長より、現在、広報担当理事が行っているメール配信を事務局に委託し、広報担当理事には他の広報対応に専念してもらうことが提案され、承認された。

9. ニューズレター116号の発行予定 (清水理事)

清水理事より7月末頃に発刊予定とすることが伝えられた。

10. 入退会者の承認について (松繁理事)

松繁理事より新入会者13名の承認依頼があり、承認された。また、退会4名、逝去1名の報告があった。

11. その他

天田理事より継続審議になっていた医学教育のモデルコアカリキュラム改訂に対する本学会の取り組みについて提案があり、天田理事が担当となって今後行うことの整理をすることとした。

以上

7. 看護・ケア研究部会報告

今年度、看護・ケア研究部会は役員交代となり、部会員による役員選挙の投票結果に基づき、部会長は吉田澄恵(東京医療保健大学)、副部会長は西村ユミ(東京都立大学)、庶務は鷹田佳典(日本赤十字看護大学)、会計は清水準一(東京医療保健大学)となること、第46回大会で開催された部会の総会で承認されました。

またCOVID-19の感染拡大状況を受けて、今年度の定例部会はZOOMを用いた遠隔開催とすることになりました。

8. 「保健医療社会学を学べる研究者」掲載情報募集

本学会では会員からの自主的な提供によるデータに基づいた「保健医療社会学が学べる研究者」のリスト作成に取り組んでいます。頂いた情報は内容ごとに整理をし、学会ホームページ(<https://square.umin.ac.jp/medsocio/list-researcher.html>)上に掲載します。

学科・専攻・研究室等としての情報や、非常勤講師などとして担当している科目の情報でも構いません。その他、保健医療社会学を学ぶために有用なサイト等でも構いません。

掲載をご希望される方は、上記のホームページから提出用のエクセルファイルがダウンロードできますので、必要事項を記入の上、学会事務局までメールでご連絡ください。掲載にあたっての微細な変更については、お任せ頂きたく存じます。

9. 編集後記

COVID-19の感染拡大の影響により、会員の皆様も大きな変化を強いられストレスの高い日々を送られているのではないかと推察いたします。本学会も大会や理事会、委員会等の遠隔での実施を強いられる状況です。これまでの積み重ねで対応できる内容もありますが、特に若手会員を中心とした研究者間ネットワークの形成とった学会の役割については、何ができるのか考えてゆきたいと思います。

最後になりましたが、今号の発行が遅れたことをお詫び申し上げます。

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当（清水準一）
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター	
jshms-office@bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375